

【お問い合わせ先】

キャタピラー

渉外・広報室

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1

TEL: 045-682-3576 FAX 045-682-3690

本資料はCaterpillar米国本社が2019年1月28日に発信したプレスリリースを日本語に翻訳し、みなさまのご参考に提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容・解釈については英語が優先します。

## Caterpillar が 2018 年 第 4 四半期および通年業績、2019 年見通しを発表

1 株当たり利益は通年で過去最高、2019 年も増加見込み

- 2018 年の売上高は、第 4 四半期で 11%増、通年で 20%増
- 強固な財務状況：同年最終時点の全社現金残高は 79 億ドル
- 第 4 四半期に 18 億ドル、通年で 38 億ドルの自社株買いを実施
- 2019 年の 1 株当たり利益は増加見込み（予想幅：11.75～12.75 ドル）

	第 4 四半期		通年	
	2018	2017	2018	2017
(単位：10 億ドル、但し 1 株当たり利益除く)				
売上高	\$14.3	\$12.9	\$54.7	\$45.5
1 株当たり (損) 益	\$1.78	(\$2.18)	\$10.26	\$1.26
調整後 1 株当たり利益	\$2.55	\$2.16	\$11.22	\$6.88

(イリノイ州ディアフィールド発) — Caterpillar Inc. (NYSE: CAT) は本日、2018 年第 4 四半期および通年業績を発表しました。

同四半期の売上高は、143 億ドルとなり 129 億ドルだった前年同期に比べて 11%増となりました。同じく最終損益は、1 株当たり 1.78 ドルの利益（前年同期：2.18 ドルの損失）、調整後 1 株当たり利益は 2.55 ドルで、2.16 ドルだった前年同期に比べて 18%増加しました。通年では、売上高が 547 億ドルとなり前年度の 455 億ドルから 20%増、1 株当たり利益は 10.26 ドル（前年度：1.26 ドル）、調整後 1 株当たり利益は 11.22 ドルで前年度の 6.88 ドルから 63%増となりました。

上述の調整後 1 株当たり利益には、事業再構築費用、年金および OPEB（年金以外の退職後給付）プランの再評価に伴う時価評価損、一定の繰延税金資産の評価性引当金調整分、米国税制改革の影響分、2017 年の出資持分売却益などから成る複数の調整は含まれていません。

同四半期、建設機械、エネルギー&トランスポーテーション（ME&T）事業部門の営業キャッシュフローは 25 億ドルで、当社は、18 億ドル相当の Caterpillar 普通株を買戻し、5 億 700 万ドル相当の配当金を支払いました。

通年では、ME&T 事業部門の営業キャッシュフローが 63 億ドルとなったため、当社は、38 億ドル相当の Caterpillar 普通株の買戻しや 20 億ドル相当の配当金の支払および 10 億ドルの自由裁量年金拠出を始めとする多額の資金を投じました。上記 58 億ドル相当の株主還元分を差し引いた全社現金残高は、2018 年度末で 79 億ドル（前年度末：83 億ドル）となりました。

Caterpillar の Jim Umpleby（アンプレビー）CEO は、「当社は 2018 年に、過去最高の 1 株当たり利益を達成し、大規模な株主還元を実施しました。世界中の当社従業員は引き続き、お客様へのサービス、自社戦略の実行、将来の『利益ある成長』のための投資に集中して取り組んでいます」と語りました。

## 2019 年見通し

過去最高の 1 株当たり利益に続き、2019 年の 1 株当たり利益は、11.75~12.75 ドルの幅への増加を見込んでいます。

アンプレビーCEO は、「この見通しは、当社の多様なエンドマーケットの各種経済指標とマクロ経済環境や地政学的背景に基づいた妥当な売上増を前提としています。我々は、コスト規律を始めとする『オペレーションの卓越性』を重視した取り組みを継続するとともに、長期的な『利益ある成長』の原動力となる製品・サービスの拡充のための投資も行っていく所存です」と述べました。

2019 年から、調整後 1 株当たり利益は、事業再構築費用が正常レベルに戻ることが予想されるため、この費用を除いたものとししない予定です。なお、この見通しには、年金および OPEB（年金以外の退職後給付）プランの再評価に伴う時価評価損益や、2019 年発表の解釈指針による米国税制改革関連の予想値に対する変更は含まれていません。

以 上

### キャタピラー社について：

建設機械の歴史は、1925 年にキャタピラー社と共に始まり、未来へ続きます。世界最大の建設機械メーカーであるだけでなく、エンジン・発電機などパワーシステムのリーディングサプライヤーでもあります。また、1963 年以来、キャタピラー社は、半世紀以上にわたって、日本に重要な拠点を構えています。特に、主力製品である油圧ショベルの開発・製造をリードし、時代の先端を行く製品と技術を世界へ発信しています。